様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：２４３０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６１７０１０

研究課題名（和文）南アジアにおける歴史的遺産・景観文化に関する学際的研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary Study on Historical Heritage and Landscape Culture in South Asia

研究代表者
福井　亘（FUKUI, Wataru）

京都府立大学・生命環境科学研究科（系）・准教授

研究者番号：６０３９９１２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，南アジアのバングラデシュを中心に，都市空間における歴史的な遺産と景観に対し，市民がどう認識しているか調査し，都市の街並みに住民がそれをどう利用し，どう意味づけているのかを探ることを目的とした。研究調査は，文献による調査として景観要素等を抽出，GISによる基礎データを進め，視覚言語化を行った。そのデータから若年層への景観認識調査，都市部での一般者への聞き取り調査などを進め，現状の景観の記録保存にも繋げ，活用できる情報を提示した。また，社会学的なアプローチから政治とホルタルについても調査でき，経済的な側面から歴史遺産や景観文化へ結び付ける糸口を示すことができた。

研究成果の概要（英文）：This study investigated how a citizen recognized it for a historic heritage and landscape of the urban in Bangladesh of the South Asia. The inhabitants used it to the townscape how and were intended to investigate how it gave meaning. The study investigation extracted landscape elements from the investigation with documents and became visual language from the basic data using GIS. From this data, it was the landscape recognition investigation to the young group and the hearing investigation to a general inhabitants. As a result, it was connected with the record preservation of the present land scene and showed the information that could inflect. In addition, this study could investigate politics and Hortal from sociological approach and was able to show a study to be connected from the economic side to a Historical heritage and landscape culture.

研究分野：ランドスケープ学

キーワード：南アジア　バングラデシュ　歴史的遺産　景観文化　都市景観　景観認識　GIS　国際情報交換

１．研究開始当初の背景

南アジアの歴史的環境・景観には，数多くの体系的な研究が国内外で発表され，研究の蓄積がある。しかしながら，これら事象をめぐる地域住民の行動や価値観を問題にした研究は，ほとんどなされていない。

環境・景観自体をめぐる専門的な分析と，その結果に基づき学術的価値を明らかにする研究は，これまでにもなされているが，事象について地域に暮らす住民がどのように利用し，また価値付けているかを明らかにしようと試みる研究事例は，管見の限り，国内外共に存在しない。

この問題認識から本共同研究は，南アジアのバングラデシュを中心フィールドに設定し，次の二点に焦点を当て，調査することを目的とした。第一に当該社会の都市空間における歴史的な遺産と景観に対する市民の姿勢について具体的検討を試みた。

第二に，本共同研究では，都市空間に備わる街並みにも着目し，市民がそれをどのように利用し，どう意味づけているのかを探ることとした。この二点を本研究の当初の主たる背景である。

２．研究の目的

現在の南アジアは，衣料品ほか各種工業製品の生産で世界経済へ大きく貢献すると同時に欧米的な消費文化を積極的に受容することで，加速する経済のグローバル化に深く組み込まれるまでに至っている。

経済的役割から注目が集まる南アジア世界には，元来独自の歴史的遺産や景観文化が継承されている。だが一方で，一部においては急激な変化を遂げ，破壊や消失の危機に瀕しているものもある。文化のボーダレス化あるいはグローバル化が強調される現代において，地域固有の歴史的遺産・景観文化が持つ価値を明らかに再確認していくことは，非常に重要な点であると考えられる。

そのような状況をふまえ，本共同研究は，南アジアの歴史的遺産と景観文化をめぐる市民の行動と価値観に関する検討，ならびに考察を第一に行った。

第二に，文化のボーダレス化，あるいはグローバル化が強調される現代において，街並みの景観や景観にかかわる自然環境の基礎部分についても明らかにし，活用できる指針を示すことも目的とした。

第三として，実現を担う主体に関わる基本的なデータを提供することで，発展途上国社会と先進国社会にあいだに求められる環境をめぐる協調・協力体制の構築に貢献への目的とした。

実現を担う主体に関わる基本的なデータを提供するものと位置づけ，発展途上国社会と先進国社会にあいだに求められる環境をめぐる協調・協力体制の構築に貢献したいと考えていることをも目的としている。

３．研究の方法

本研究は，南アジア・バングラデシュの都市部地域を中心として，都市部に居住する住民の歴史的遺産や景観への姿勢，その評価のありようについて調べ，ミャンマーやタイ，ベトナム，中国南部などの周辺国についても今後の調査拡大を目指して，調査を多角的に進めるため調査をした。

まず，バングラデシュにおける対象調査都市として，首都のダカ市（Dhaka）と当該国第 2 の都市であるチッタゴン市（Chittagong）において調査をそれぞれ行った。対象都市における歴史と景観に関する要素の抽出を既存史料の調査を進めるとともに，そのデータをもとに現地において地理情報システム（GIS），衛星位置測位システム（GPS・GLONASS）を用いたデータの収集とデータベース化を行った。その上で当該データベースを用いたアンケートによる調査とヒアリングによる調査を実施した。

これらの調査の結果を総括し，活字媒体を通してのデータの公表と研究会による公開を進めた。

研究方法の詳細は，次の 1）から 4）の手順で進めた。

1）南アジアでの調査国，旧宗主国である英国での文献調査（SOAS，University of London）による各要素の抽出，中でも景観文化などについては可能な限り調査を進めた。その結果をもとに，調査当該国であるバングラデシュの現地において文献からの位置確認などの作業を行った。

　その際，GPS，GLONASS を利用し，GIS データベース化を進め，歴史と景観の要素抽出を進めた。

2）文献の調査情報，位置情報，写真，調査シートなどの得られた要素のデータに加え，各種データ（植生や公園などの緑の環境，生物相，等）もあわせて，GIS によるデータベース化を進め，これを活用しながらアンケートによる認識と価値観に関する調査を進めた。

　特に，小学生から大学生に至る若年層に対し，街並み景観の現況についてアンケート調査を実施しするとともに，SD 法を活用し，景観評価実験も行い，そのデータについては，主成分分析などの解析をした。

3）調査票調査は，社会学的なアプローチとして聞き取り調査を実施し，調査票調査の結果の検討を進めた。

　検討を踏まえて，バングラデシュにおける環境政策の現状と今後の方向性をテーマについて，行政担当者や政治家を対象としたヒアリング調査を進め，取りまとめた。

4）1）から 3）の調査結果，解析結果については，学術団体への投稿，研究発表や口頭発表，各種研究会やセミナーなどによる勉強会を進め，本研究の成果を公表した。

４．研究成果

1-1）SOAS での文献調査の結果も踏まえて，調査地での景観要素等が抽出できた。この文献調査に加え，景観や風景に関しての調査研究，報告事例について調べた結果，世界遺産の寺院での保全策対応などがあるが極めて少ないことも明らかとなった。

古代の風景，景観計画の構造について述べたものなど，いくつかの調査研究が散見されたものの，景観認識を主体にした事例や報告書そのものが，国内外でほとんど確認されない状況で景観評価については皆無であることも明らかとなった。

また，景観調査といった点でみてみると，研究がほとんど無く，当該地区での GIS や GPS, GLONASS を活用した調査事例，報告書などもみられなかった。この点を踏まえて，本研究のデータベース化では，基礎データを視覚的に見えるよう視覚言語化を進め，基礎的なデータベース化が可能となった。

1-2）本研究では，GIS を活用したパブリック・アーケオロジーといった視点についても注目し，これらの文化的な資源をどう活用できるのかの指針について，デジタルを駆使した取り組みとして公開するとともに，その成果を提示した。

2-1）景観評価の調査についての成果は，チッタゴン市における若年層の景観認識をどのように意識しているのか，十分に把握することができた。特に，調査対象者が小学生から大学生に至る広範囲の年齢層で進められたことは，今まで調査がされていない点でもあり，景観評価の先駆的な調査になったと思われる。

加えて，街並みを含む景観評価については，当該国では皆無の研究でもあり，本成果が景観調査として，バングラデシュにおいて先駆的な事例であると考えている。

本研究では，若年層に対しての好ましい景観と好ましくない景観として，街の経済的な要素，人口の増加なども大きく絡んでいると考えられることも明らかにした。加えて，主成分分析等も進め，若年層の当該市であるチッタゴンの景観について，分析でき，本市の景観のよい要素とそうではない要素の違いを示すこともできた。

今回の調査研究で，景観についての認識調査を進められたことは，ほとんど調査研究がされていなかったバングラデシュでの景観認識のデータを提供することでもあり，現状の景観の記録保存にもつながったものといえ，活用できる情報であると考えられる。

2-2）都市景観の研究の成果としては，ダカ市のオールド・ダカと言われる英国統治時代から続く地区での歴史的建造物について，その位置把握を進めるとともに，景観要素として決して有名ではないものではあるが，都市の景観として重要な建造物，ランドマークとなる建造物に際しても，簡易的な記録保存することができた。このことは，今後の景観へのデータベースを提供できるものと思われる。

また，当該市のオールド・ダカの地元住民への直接アンケート調査を実施した。その結果，住民の景観についての認識や今後の景観のあり方など，今まで調査されていない点を示すことができた。

地域住民に対して，都市環境，都市空間に関するアンケートが，今まで既存の研究成果としては，ほとんど見られない。このことから，この成果についても，基礎データとして，今後の研究調査のみならず，当該地域の開発に大きく寄与できるものと考えられる。

2-3）本研究では，2-1 に示した景観でも悪いと認識されたスカベンジャーの生物についての調査も進めた。今までこういった調査について当該国で行われた例は皆無でもあり，基礎データの提供といった点で重要であると考えている。

スカベンジャーである 2 種のカラスを指標にその移動について調査を行い，餌場へ向かうある一定の周期で移動をしていることをデータから示した。この結果から，生物を含めた良い景観に結びつけるための環境のあり方を示す次へ繋ぐ研究が提示できた。

本調査は，バングラデシュでの生物調査のデータとしても基礎部分を大きく補填できる結果を示すこともできたと考えている。

3）本研究では，社会学的なアプローチから政治とホルタル（Harta：南アジアの政治的一環であるゼネラルストライキ）についての調査を詳細に行い，今後の歴史遺産や景観文化に関係する経済的な問題について，聞き取り調査などを社会学的なアプローチをもとに考察を行った。

その成果として，バングラデシュの政治的な問題を詳細に示すことで，経済的な側面から歴史遺産や景観文化へ結び付ける糸口を示すことができた。

4）研究成果の公表，発表等は，上記，1～3について，国内外学会を中心に成果を口頭，ならびにポスター発表をした。加えて，審査付論文へも投稿，掲載されることで成果を示すことができた。

さらに，本研究の今後への発展を考え，バングラデシュのみならず，周辺域の諸国との関係性を視野にいれた研究会を公開セミナー形式で科研最終年度末に発信をした。

この中でも，バングラデシュとその周辺国とバングラデシュに関わりの深いパキスタンについても研究者による研究会セミナーを開き，「歴史的遺産・景観文化と南アジア・東南アジアの現在‐「対話する考古学にむけての国際比較‐」として，最終年度に開催し，予稿集を印刷するとともに，セミナー時に配布を行い，本科研の成果を提示した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

①福井亘，田中智香，グレイン論による路地境界部の魅力抽出の簡易調査，ランドスケープ研究，査読有，78（5），2015，735-740

②佐野光彦，バングラデシュの歴史的建造物と都市景観‐オールド・ダカ地区を中心として‐神戸学院総合リハビリテーション研究，2，査読無，2015，83-93

③福井亘，バングラデシュ・チッタゴンの都市部に住む若年層の景観認識調査について，ランドスケープ研究，査読有，77（5），2014，681-684

④佐野光彦，ホルタルとバングラデシュ政治，国際アジア共同体ジャーナル，査読有，3・4，2014，184-193

⑤魚津知克，ディスカッションセミナー「著者と話そう『入門パブリック・アーケオロジー』を開催して，福井大学教育地域科学部博物館集報，1，査読無，2014，52-55

〔学会発表〕（計 4 件）

①福井亘，バングラデシュ・チッタゴンにおける 2 種のカラスの塒移動について，平成 26 年度日本造園学会関西支部大会，査読無，2014，25-26

②Uozu Tomokatsu, Technological Interaction and Maritime Groups at the establishment of Kofun Period Society in Japan Archipelago, IPPA 2014, Siem Reap, Cambodia, 2014

③Uozu Tokatsu, Seino Yoichi, Fukui Wataru, Goshikizuka, the Typical “Tumulus by the Sea” in the Japanese Ancient Period: Geographical Background, IGU 2013 Kyoto Regional SConference, Kyoto, Japan, 2013

④中井淳史，モノの由緒，モノの価値，備前歴史フォーラム 2014，2014 年 3 月 14，日備前市

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕出願状況（計 0 件）

〔その他〕（計 1 件）

①科研公開セミナー，『歴史的遺産・景観文化と南アジア・東南アジアの現在‐「対話する考古学」にむけての国際比較‐』，2015 年 3 月 12 日 13 時 30 分から 17 時，同志社大学今出川キャンパス良心館で開催
予稿集印刷・配布

６．研究組織

（1）研究代表者

福井　亘（京都府立大学・大学院生命環境科学研究科・准教授）
研究者番号：60399128

（2）研究分担者

魚津知克（大手前大学・史学研究所・主任）
研究者番号：70399129

佐野光彦（神戸学院大学・総合リハビリテーション学部・講師）
研究者番号：30446033

中井淳史（兵庫県立大学・大学院地域資源マネジメント研究科・教授）
研究者番号：80411768

坂本真司（大手前大学・現代社会学部・非常勤講師）
研究者番号：20425094

（3）研究協力者

イフティカル・ウッディン・チョドリー
（Ifthekar Uddin Chowdhry）
バングラデシュ国立チッタゴン大学社会学部・教授

ラザール・クリム・フォキル
（A. B. M. Razaul Karim Faquire）
バングラデシュ国立ダカ大学言語研究所・教授

ゴラム・ハッセン
（Golam Hossain）
バングラデシュ国立ジャハンギール・ノゴール大学政治学部・教授

キョー・ミョー・セット
（Kyaw Myo Sat）
ミャンマー国立ヤンゴン大学・講師